

公立大学法人岩手県立大学 中期目標

(はじめに)

岩手県立大学は、「自然」、「科学」、「人間」が調和した新たな時代を創造することを願い、人間性豊かな社会の形成に寄与する、深い知性と豊かな感性を備え、高度な専門性を身につけた自律的な人間を育成することを建学の基本理念とし、この基本理念の下、大学の基本方向を次の5つに求めて大学づくりを行ってきました。

豊かな教養の修得と人間尊重の精神の涵養
学際的領域を重視した特色ある教育・研究
実学・実践重視の教育・研究
地域社会への貢献
国際社会への貢献

現在まで4つの学部全てに博士課程を設置するなど教育・研究機能の充実を図るとともに、様々な先進的な取組みにより地域に根ざした大学として、教育・研究、地域貢献に着実に実績を積み重ね、成果をあげてきました。そうした中、県内外から優秀な学生が集い、互いに切磋琢磨して学び合い、高い就職率に見られるように卒業後の進路も順調に展開しています。

今後、大学を取り巻く様々な環境の急速な変化に対応し、公立大学法人への移行を機に大学運営の自律性をさらに確立し、教育・研究の一層の質的向上を図るために、大学運営の5つの基本方向を発展させながら、次のような姿を目指していくものとします。

1 「実学実践」の教育・研究を通して地域に貢献する大学

「実学実践」と「地域貢献」は、岩手の県土と県民を背景として生まれた岩手県立大学設置の本来の趣旨です。また、これは、現場での究極的な探求の中に真理が存在し、人間社会への応用と貢献に科学の使命があるという学問本来の姿をも示しています。

岩手県立大学は、こうした「実学実践」に基づく「実証研究」と、それと組み合わせた高度専門教育により、地域の将来を支え、リードする人材を養成するとともに、「実学実践」の教育・研究を通して地域社会に貢献します。

2 志に火をつける「実学実践」の教育による人間的成長を培う大学

開学以来、特色ある4学部、2短期大学部の総合大学として、様々な角度からの広い視野を提供する多様な学びの場の中で、人間性を培う教養教育を重視してきました。今後は、「実学実践」を教育の場に一層取り込み、学生を現実社会の諸課題に対じさせることにより、学生自らが自己の限界を知り、課題を克服しようとする志を持ち、使命に気づくことを促す教育を実践することによって、人間的成長を培っていきます。

3 「実学実践」を中核とした「人間教育」・「実証研究」・「地域貢献」の一体的な進展

「実学実践」を中核として、全ての基盤としての「人間教育」と現実の中から研究テーマを見いだす「実証研究」、知の提供により地域課題を解決する「地域貢献」を一体的に進展させ、21世紀をリードする人材の養成と「知の創造・交流拠点」を目指します。

中期目標の期間及び教育・研究上の基本組織

1 中期目標の期間

平成 17 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

2 教育・研究上の基本組織

この中期目標を達成するため、別表に記載する学部、研究科及び短期大学部を置きます。

大学の教育・研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育の成果に関する目標

「実学実践」を中核とし、次のような教養教育と高度専門教育とを融合した「人間教育」を各課程において実践することにより、変動する社会の中で自律する地域・組織をリードする人材を養成します。

ア 学士課程

人間性を培う教養教育を充実するほか、実証的、実践的な研究と組み合わせた高度専門教育により課題解決能力の育成などを図ります。

イ 大学院課程

高度な専門職教育により研究的視点を持った現場の実践者、独創的・先端的な研究開発を行う能力を有する研究者等の育成を図ります。

ウ 準学士課程

教養性と専門性の融合による実践的な総合教育を推進するほか、高度情報社会の進展に対応するため、基礎的な情報処理能力の育成などを図ります。

(2) 教育内容等に関する目標

ア 入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

大学が目指す人間教育と「実学実践」に基づく教育課程における教育目標を明確に示すとともに、これと連動した入試制度を整備し、人間性と専門特性に合致した資質と能力のある学生の確保に努めます。

イ 教育課程、教育方法、成績評価等の方針

実践的課題を通じた人間教育を実現するため、教養教育と専門教育の融合や実践実習的な指導方法の開発など教育課程、教育方法の改善を図るほか、適切な成績評価制度の整備に取り組みます。

(3) 教育の実施体制等に関する目標

ア 教職員の適切な配置等

教養教育の一層の充実を図るため、効果的な実施体制を整備するほか、「知の創造・交

流拠点」として民間企業など学外専門家の積極的な活用を図るとともに、学部と短期大学部間の教員の相互交流を一層促進します。

イ 教育環境の向上

学術情報機能の充実により、少人数教育、メディア教育に適した教育環境を計画的に整備するほか、岩手県立大学アイーナキャンパスの設置など社会人教育環境の拡充を図ります。

ウ 大学間、学内共同教育等の充実

(ア) 他大学との共同教育の充実や学部間、学部・短期大学部間の単位互換などを進め、教育資源の有効かつ効果的な活用により学生の多様な教育機会の確保を図ります。

(イ) 学部教育と大学院の研究指導の連携を強化し、実践的研究課題への学生の参加を促進します。

エ 教育の質の改善

教員がより質の高い教育を提供できるよう、学生による授業評価など教育評価システムの拡充やカリキュラムを定期的に評価する仕組みの整備、研修会の開催などを通じて、教育指導法の改善に努めます。

(4) 学生への支援に関する目標

ア 学習支援の充実

少人数担任制、入学時からの研究室への配属、就学相談など個別相談指導体制の充実を図ります。

イ 生活支援・就職支援の充実

健康管理センター機能の充実を図るほか、学生相談などによる生活支援体制を整備するとともに、就学継続が困難な学生に対する個別指導の充実や経済的負担の軽減を図ります。また、就職情報の収集・提供、インターンシップなどによる就職支援の充実を図ります。

ウ 社会人、留学生等に対する教育支援

社会人が学習しやすい教育プログラムの提供や留学生サポートセンターの充実を図るなど、社会人、留学生等に対する教育支援の充実を図ります。

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

現代社会の緊急課題等を研究テーマとして、多様な専門分野の研究者が学際的・複合的に研究に取り組み、地域社会に有用な優れた研究成果をあげ、その成果を地域社会に積極的に還元します。

(2) 研究実施体制等の整備に関する目標

研究水準の向上を図るため、民間企業等との研究者交流を積極的に行うなど、適切な研究者等の配置に努めるとともに、全学的研究を推進するための研究資金の重点的な配分や地域連携研究センターを中心とした学内外の連携など研究環境の整備に努めます。

3 地域貢献、国際貢献に関する目標

(1) 地域貢献に関する目標

ア 「実学実践」の教育・研究を通して地域に貢献する大学を目指すため、岩手県立大学アイーナキャンパスを活用した社会人教育や県民学習支援などを積極的に展開するほか、遠隔教育による看護職、福祉職等の専門職業教育の充実を図ります。

イ 地域のニーズに対応した研究とその成果を地域に積極的に還元するため、知的財産の管理・活用等を図る仕組みを検討するほか、地域連携研究センターによる産学公の連携研究機能の強化、行政機関等との連携による地域課題への政策提言などシンクタンク機能の強化などを図ります。

(2) 国際貢献に関する目標

国際交流協定を締結している海外の大学との交流を一層密にし、交換留学や共同研究など国際交流事業を計画的、効果的に推進するとともに、国際交流事業を教育・研究に活かす取組みを積極的に展開します。

業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 運営体制の改善に関する目標

経営の責任者である理事長と教学の責任者である学長が相互に連携して全学的な運営体制を構築しつつ、リーダーシップを発揮できる仕組みにより意思決定の迅速化と業務の効率化を図ります。

また、組織・体制を継続的に見直しながら大学を取り巻く新たな課題などに戦略的かつ弾力的に対応します。

2 教育・研究組織の見直しに関する目標

「実学実践」の理念の下、現代社会のニーズに対応した有用な教育・研究を実践し、優れた成果があげられるよう、教育・研究組織の継続的な見直しを行っていきます。

3 人事の適正化に関する目標

効率的、効果的な大学経営と教育・研究水準の一層の向上を図るため、専門性の高い人材の確保・養成、全学的な観点からの柔軟な教職員の配置、任期制など多様な任用制度の導入、実績に対する適切な評価などにより、人材の確保・育成、組織の活性化を図ります。

4 事務等の効率化、合理化に関する目標

効率的、効果的な事務処理を行うため、事務組織の機能編成の見直しを行うとともに、事

務処理の電子化、業務の外部委託化（アウトソーシング）を進めます。

財務内容の改善に関する目標

- 1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標
学内における研究を活性化し、多様な専門分野の研究者が相互に連携することによって、積極的に外部研究資金の増加に努めます。
- 2 経費の抑制に関する目標
教育・研究の機能強化を図りつつ、恒常的な業務の見直し、改善・効率化により、運営経費の抑制に努めます。
- 3 資産の運用管理の改善に関する目標
資産管理の体制を整備し、適切な資産管理を行います。

自己点検・評価・改善及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- 1 評価の充実に関する目標
教員の「自己点検評価」を恒常的に実施し、教員と教育・研究の質の向上を図るとともに、各部局等の取組計画と実績及び成果について評価を行い、結果を公表して運営の改善・充実に図ります。
また、全学の組織・運営、教育・研究活動等について、外部評価・第三者評価を定期的の実施し、その改善に反映させます。
- 2 情報公開の推進に関する目標
教育・研究の成果及び運営状況について、情報公開を積極的に行い、大学の教育・研究活動に対する県民の理解が得られるように努めます。

施設設備の整備・活用等及び安全管理に関する目標

- 1 施設設備の整備・活用等に関する目標
良好な教育・研究環境を確保するため、適切な施設設備の管理に努めるとともに、学内施設設備の有効活用を図ります。
- 2 安全管理に関する目標
教育・研究活動等における安全と健康を確保するために全学的な体制を整備するとともに、学生及び教職員等の安全確保のため、適切な防災・防犯対策を講じます。

別表

<p>学 部</p>	<p>看護学部 社会福祉学部 ソフトウェア情報学部 総合政策学部</p>
<p>研究科</p>	<p>看護学研究科 社会福祉学研究科 ソフトウェア情報学研究科 総合政策研究科</p>
<p>盛岡短期大学部</p>	<p>生活科学科 国際文化学科</p>
<p>宮古短期大学部</p>	<p>経営情報学科</p>